

# I. 調査要領

## 1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 30 年 1 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 29 年 10 月～12 月期の実績および平成 30 年 1 月～3 月期の見通しについて調査した。

## 2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

## 3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	14 社	46.7%
水産業部会	30 社	16 社	53.3%
機械工業部会	30 社	13 社	43.3%
建設業部会	30 社	17 社	56.7%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	16 社	53.3%
合 計	150 社	76 件	50.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

## Ⅱ. 概況

－業況は4年振りにマイナスから脱却も、次期は再び大幅悪化の見通し－

### 1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成29年10月～12月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比で0.0**と前回調査時の**▲9.2より9.2ポイントの回復**となり、4年振りにマイナス域からの抜け出す形となりました。前回調査時の次期見通しは**▲23.6**だったことから、予測よりも好転した事がうかがえます。

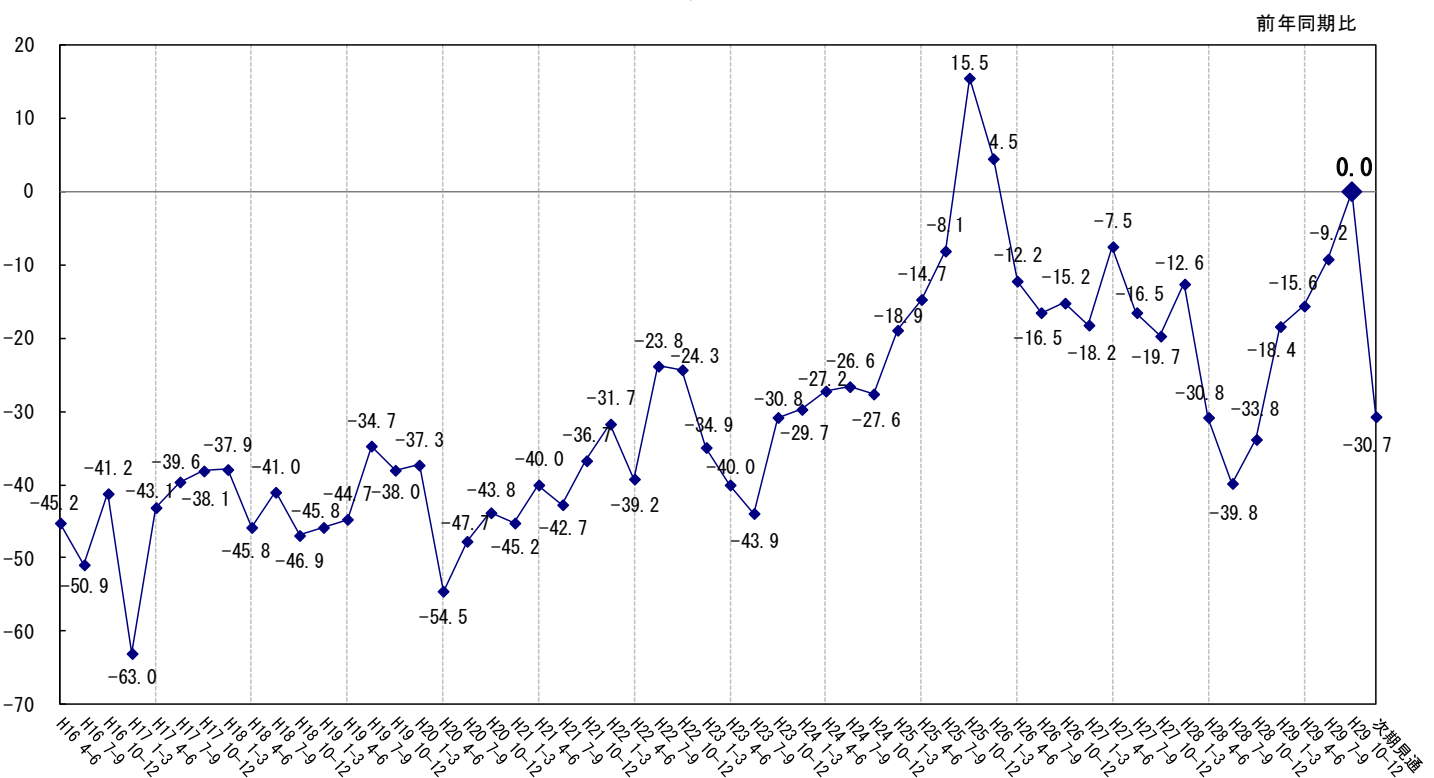
部会別に前年同期比ベースをみると、商業・食品業 [前年DI値**▲38.9**→今期**▲28.6**]、水産業 [前年DI値**▲31.6**→今期**12.5**]、機械工業 [前年DI値**▲22.2**→今期**23.1**]、建設業 [前年DI値**▲38.9**→今期**11.8**]、観光・サービス・諸業 [前年DI値**▲31.6**→今期**▲18.8**] となりました。

今回の調査では、全ての業種で前年同期より「好転」する結果になりました。活カニの輸入により前年比増となった水産業や、自動車整備関連が降雪前の整備で需要が伸びた機械工業、電気工事関連の建設業から「やや好転」との回答が多く寄せられたことが要因となり、昨年的大幅な悪化からの回復となりました。しかしながら、新規高卒者の就職内定を見ても、一次産業における就職希望者が著しく少なくなっており、産業を支える基盤となる「人材の確保」が大きな課題となっています。

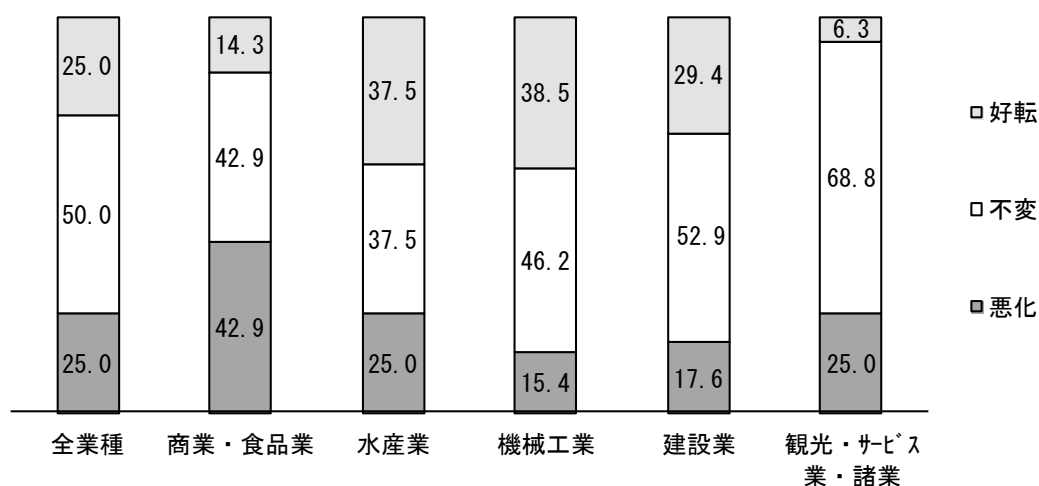
**次期(平成30年1月～3月)**については、**業況判断DIが再び▲30.7と大幅に悪化する**との予測となっております。特に今期好調であった機械工業、建設業も大幅に悪化に転じる見通しの回答が寄せられています。商業食品業や観光サービス業・諸業においても更なる悪化の見通しとなっており、市内を取り巻く環境は、依然として厳しい状況となっております。

### 紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

(好転－悪化)



### 今期の業況（前年同期比）



全業種の経営上の問題点としては、「材料等の仕入単価の上昇」「需要の停滞」「従業員・熟練従業員の確保難」を訴える声が多く寄せられております。

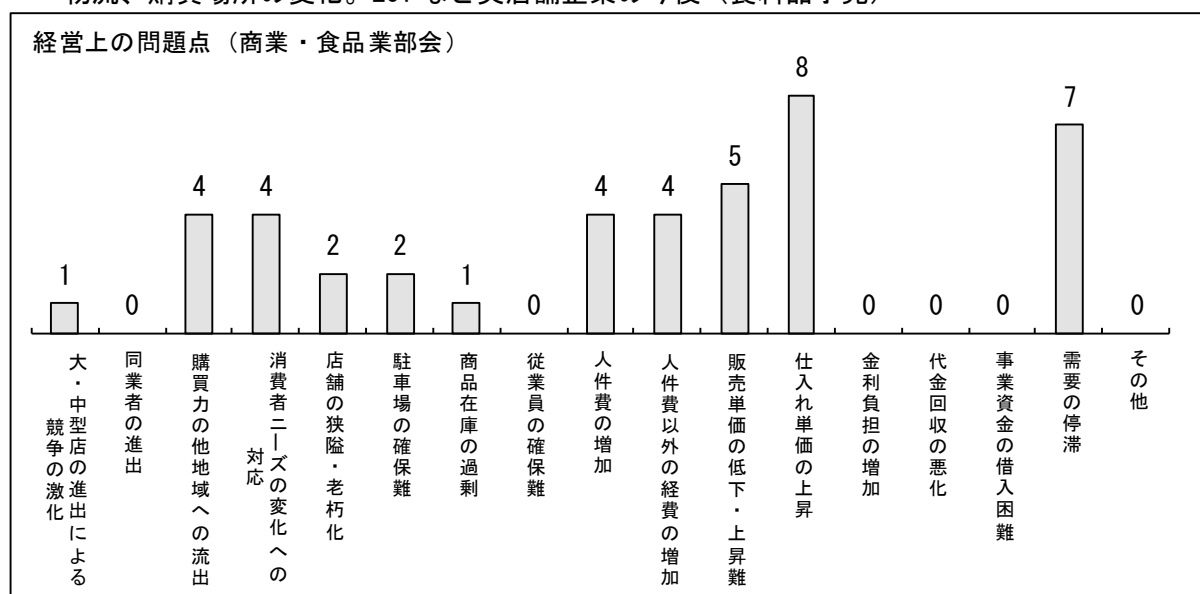
### ■ 部会別の動向

**【商業・食品業部会】** [業況判断 DI 値（前年同期比）▲28.6（前年 DI 値▲38.9、来期見通し▲50.0）]

業況 DI 値（前年同期比）は、前年同期と比べ 10.3 ポイントの回復となりました。しかしながら、仕入単価の上昇による値上げ、ネット通販等による購買力の流出等により、需要が停滞する悪循環に陥り、業況判断は依然として厳しくなっています。次期見通しは再び大きく悪化する予想となっています。経営上の問題点としては「仕入れ単価の上昇」「需要の停滞」を訴える声が多くなっています。

#### 《業界の問題点等》

- ・ ネット通販への流出（衣料品等小売）
- ・ 最低賃金上昇によりパート主婦が働ける時間を減らさなくてはならない。（103 万、106 万の壁）その為もっと人を集める事に。（食料品小売）
- ・ 物流、購買場所の変化。LOT など実店舗企業の今後（食料品小売）

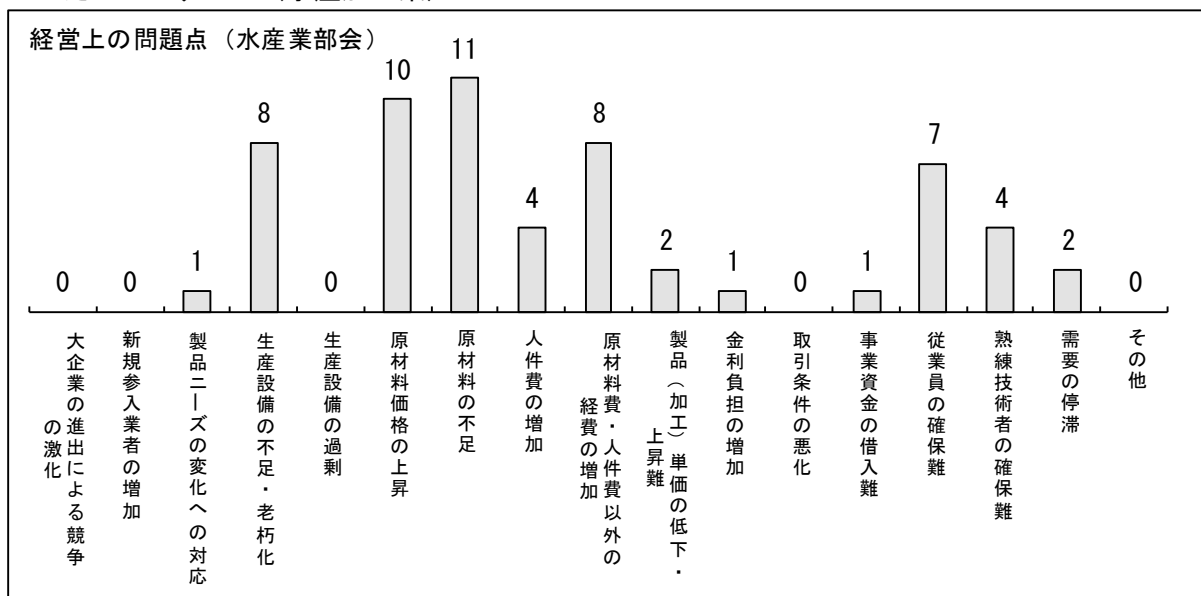


**【水産業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）12.5（前年DI値▲31.6、来期見通し0.0）]

業況判断DI値（前年同期比）は44.1ポイントの大きな改善となりました。カニの輸入量が前年より増加し、また休漁前の水揚げとなったホッケ等も順調な水揚げとなったことから、大きな回復に転じたものと思われます。次期の見通しは休漁期にも入ることから、やや悪化する予測となっていますが、DI値は0.0と大きな悪化の値にはなりません。経営上の問題点としては「原材料の不足」「原材料価格の上昇」を訴える声が多くなっています。

**《業界の問題点等》**

- ・原料（ホタテ）が水揚げされている間は、加工業者にも最後まで割り当てくださるとありがたいのですが…（水産加工業）

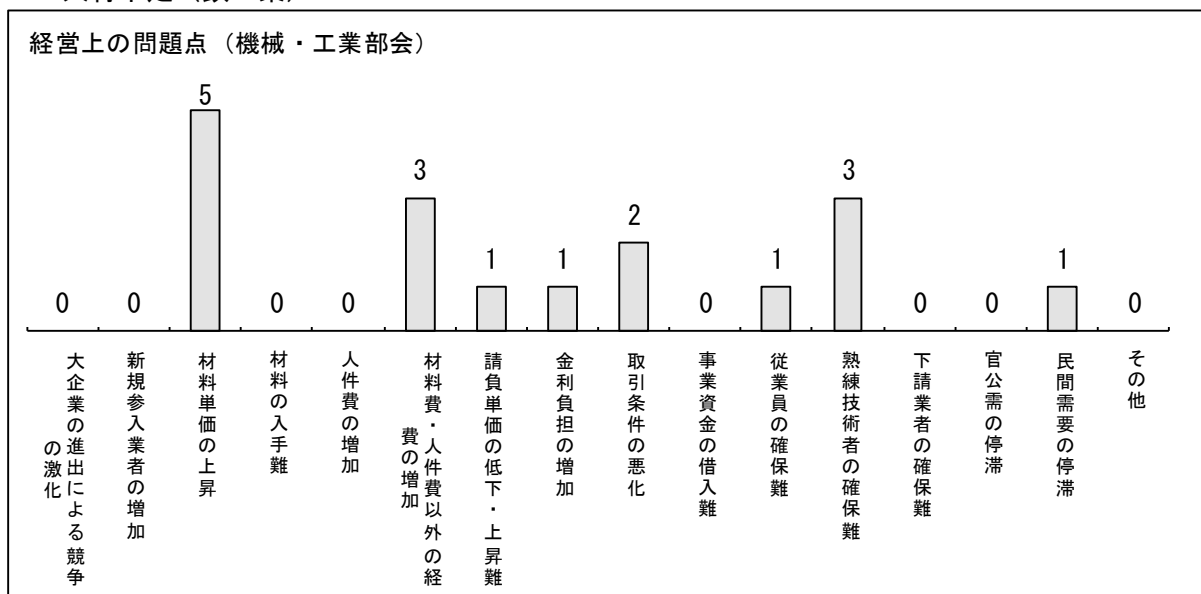


**【機械工業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）23.1（前年DI値▲22.2、来期見通し▲30.8）]

業況判断DI値（前年同期比）は、45.3ポイントもの大幅な回復となりました。機械工業の業況は他業種の業況に比例して変動する傾向にあり、今回は好循環となったようです。また本格的な冬を前に自動車整備等のメンテナンスによる需要の増加も業況を底上げしたものと思われます。来期業況見通しはこの反動からか53.9ポイント悪化する予測となっています。経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「材料費・人件費以外の経費の増加」「熟練技術者の確保難」を訴える声が多くなっています。

**《業界の問題点等》**

- ・人材不足（鉄工業）

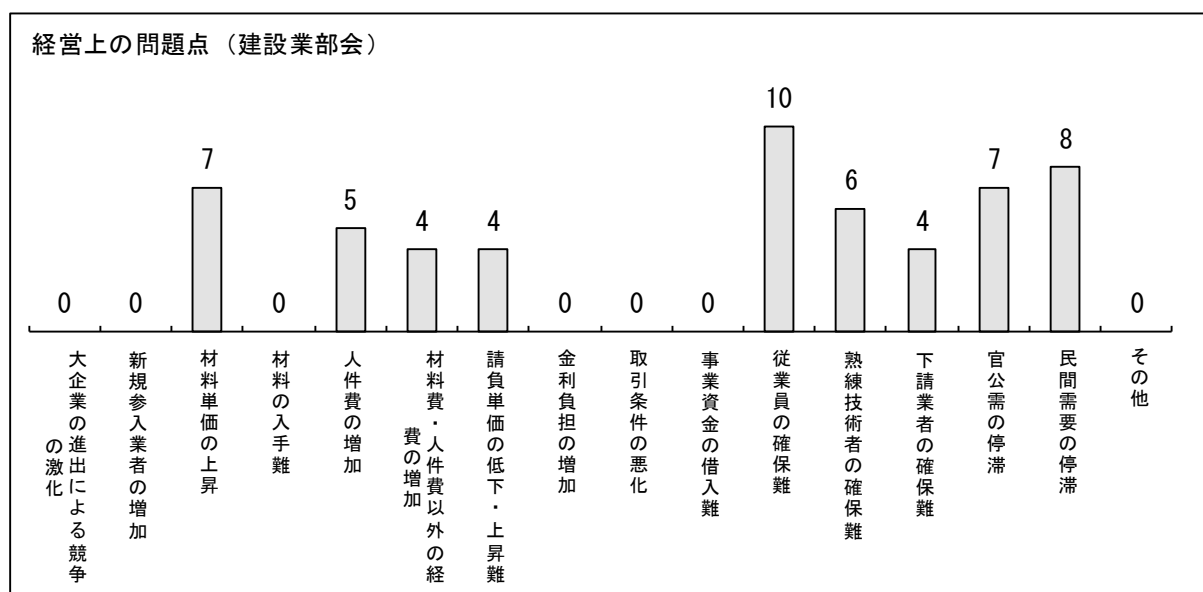


**【建設業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）**11.8**（前年DI値▲38.9、来期見通し▲35.3）]

業況判断DI値（前年同期比）は前年比50.7ポイントの好転となりました。電気工事関連からの「やや好転」との回答が多くなっており、工事完了に伴う工事代金の入金等のタイミングや市内各所での電線工事も行われ順調だったようです。しかしながら、建設業の冬期間の中心業務となる除雪作業も年末までは降雪量も少なく、作業を請負ったものの不安を抱いているとの声も寄せられています。次期はDI値が▲35.3と再び悪化の見通しとなっており、需要の停滞に加え、請負単価の低下など、厳しい状況となっています。経営上の問題点としては「従業員の確保難」を訴える声が多くなっています。

**《業界の問題点等》**

- ・ 下請単価の低下、工期短縮。（内装業）
- ・ H29年12月より市と契約の除雪（組合で請負）が、雪が少なく、作業量（出勤）が減少で請負額（収入）不足で機械、人件費の維持費の方が上回り、年明け3月まで少ないと今後、市道、その他各施設の除雪（組合）を辞退せざるを得ないと考えます。（土木建設業）
- ・ 消費税が10%になるので、建築増に期待します。（電気工事業）



**【観光・サービス業・諸業部会】**

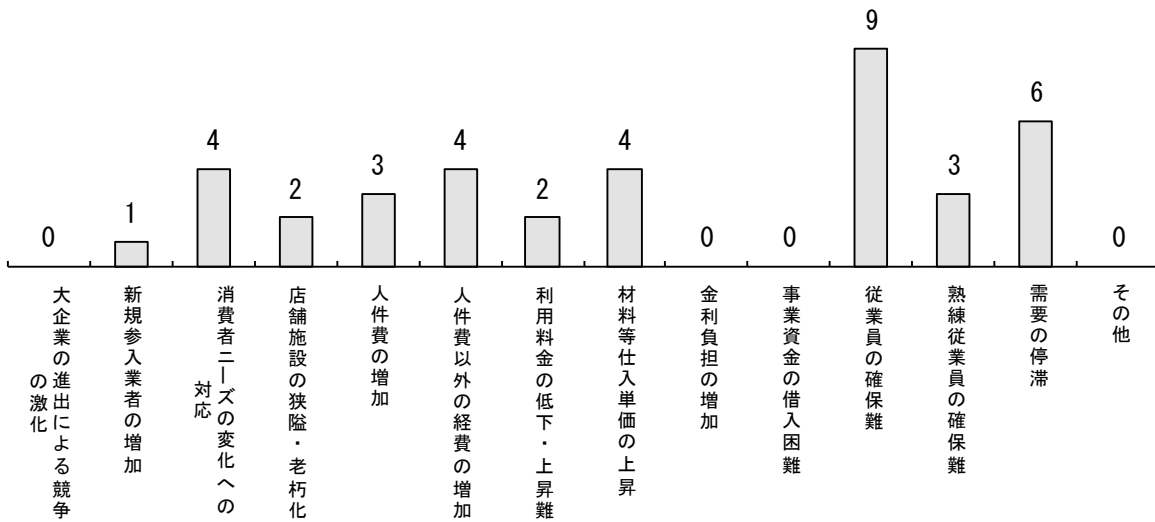
[業況判断DI値（前年同期比）▲**18.8**（前年DI値▲31.6、来期見通し▲40.0）]

業況判断DI値（前年同期比）は依然としてマイナス域ながらも前年よりも12.8ポイントの回復となりました。「不変」との回答が多く寄せられましたが、理美容業から「悪化」の回答が多く、古くからの顧客の高齢による減少や、新規参入による競争の激化といった不安の声が寄せられています。来期はDI値▲40.0と再び悪化する見通しとなっていますが、来期は冬の観光シーズンや新生活へ向けた準備等、観光サービス業・諸業の多くの業種で活発な動きが予想される事から、悪化幅の減少が期待されます。経営上の問題点としては、依然として「従業員の確保難」「需要の停滞」の声が多くなっております。

**《業界の問題点等》**

- ・ 利用者宅への駐車スペースが大雪によりなくなることが多く大変。（介護業）

経営上の問題点（観光・サービス業・諸業部会）



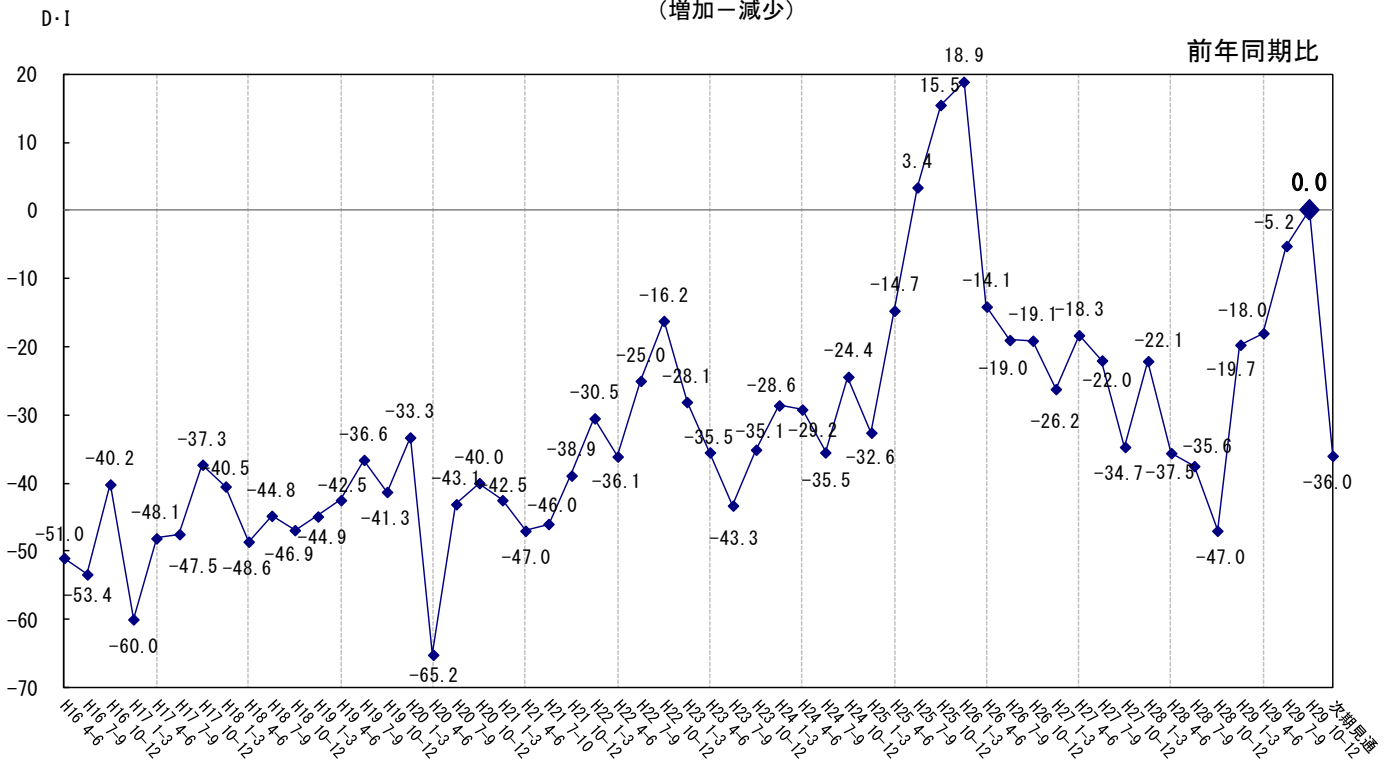
## 2. 今期の動向

### (1) 今期の売上高・生産高

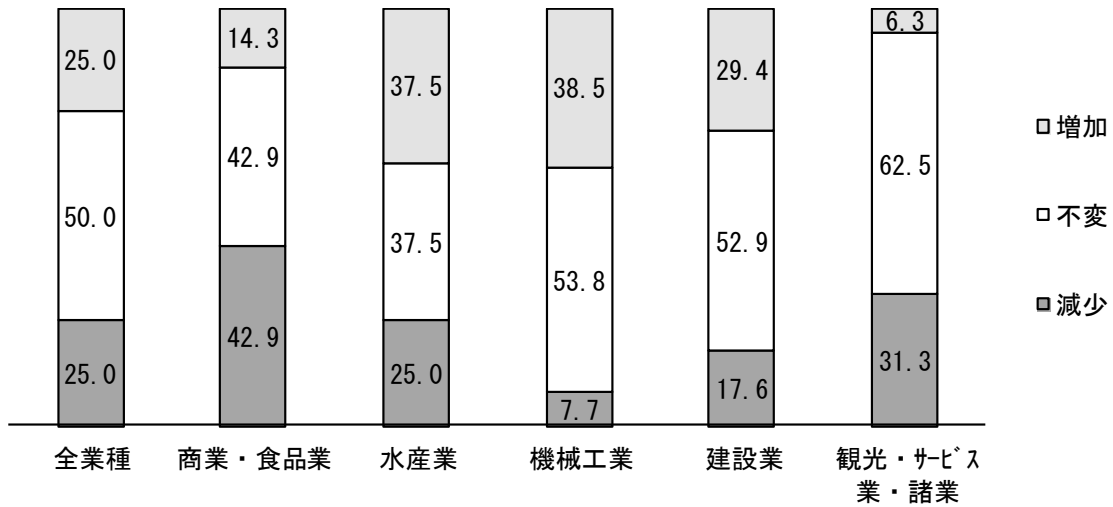
【前年同期比】（平成28年10月～12月期の水準と比較した今期の売上高）

### 売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



### 今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均でDI値0.0〔前年調査時（平成29年10～12月期▲47.0）より47ポイント改善〕  
全業種で改善

[部会別DI値]

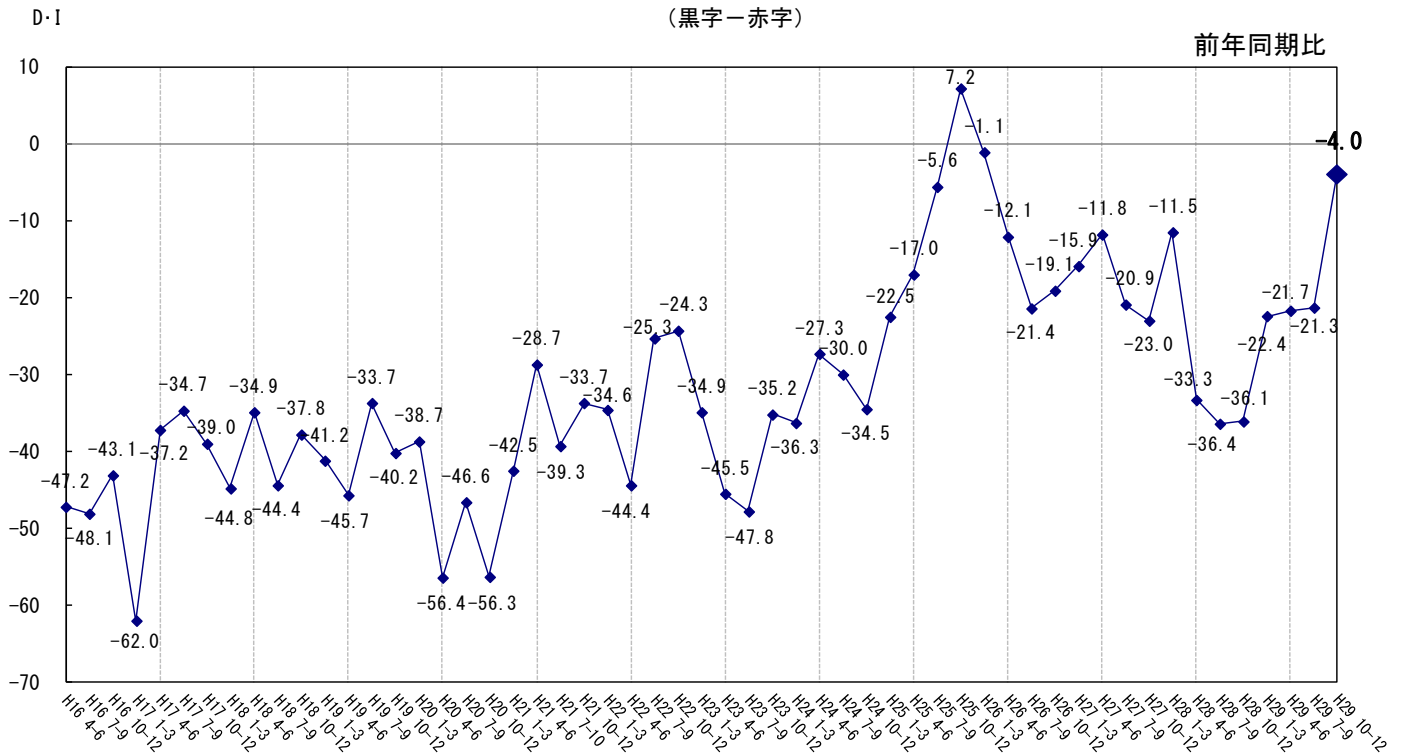
商業・食品業〔前年▲50.0→▲28.6〕、水産業〔前年▲47.4→12.5〕  
機械工業〔前年▲44.4→30.8〕、建設業〔前年▲66.7→11.8〕  
観光・サービス業・諸業〔前年▲26.3→▲25.0〕

### (2) 今期の採算

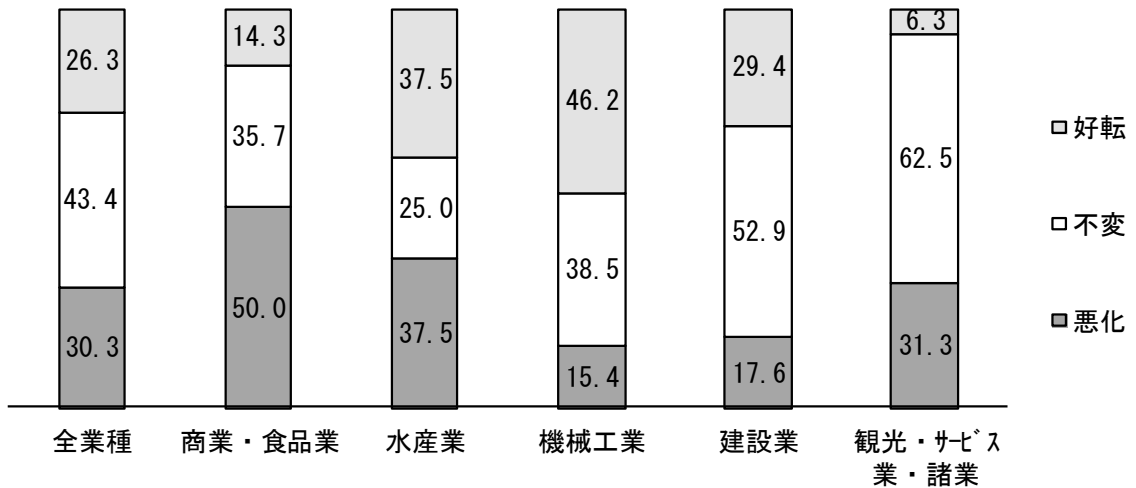
【前年同期比】（平成28年10月～12月期の水準と比較した今期の採算水準）

### 採算推移（全業種平均D・I）

（黒字－赤字）



### 今期の採算（前年同期比）



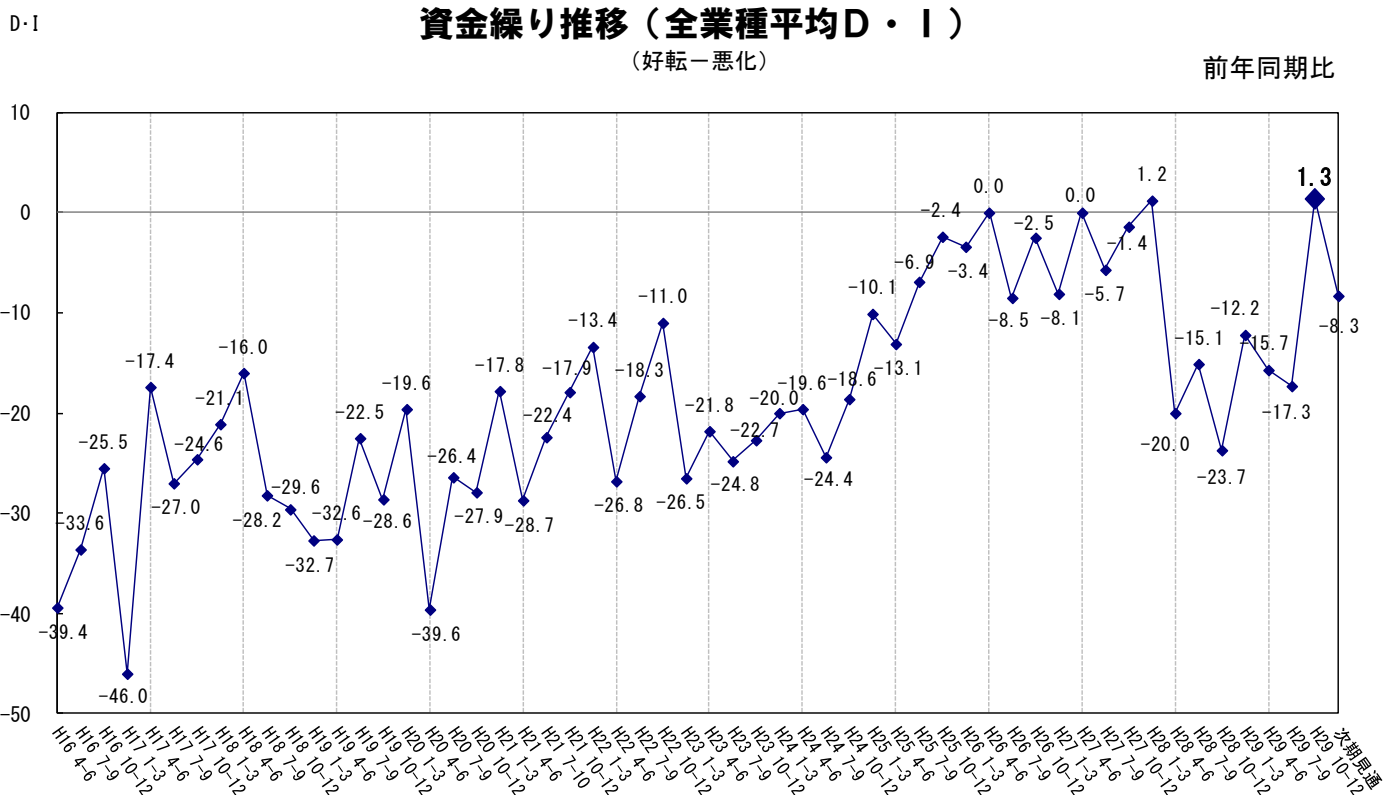
全業種平均でDI値▲4.0〔前年調査時（平成28年10～12月期▲36.1）より32.1ポイント好転〕

観光サービス業・諸業以外の業種で改善。特に機械工業、建設業で大きく好転。

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲38.9→▲37.5〕、水産業〔前年▲36.8→0.0〕  
 機械工業〔前年▲44.4→30.8〕、建設業〔前年▲44.4→11.8〕  
 観光・サービス業・諸業〔前年▲21.1→▲25.0〕

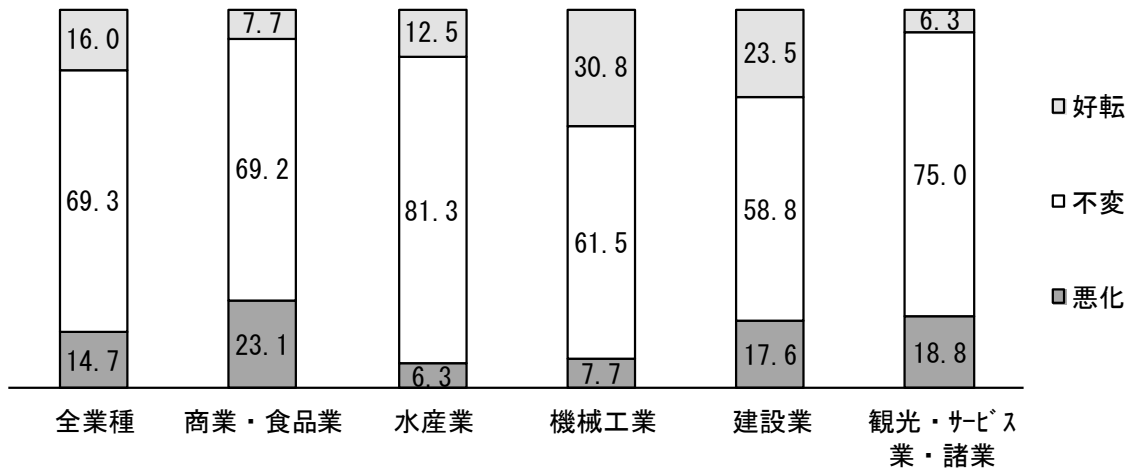
### (3) 今期の資金繰り

〔前年同期比〕（平成28年10月～12月期の水準と比較した今期の資金繰り）





### 今期の資金繰り（前年同期比）



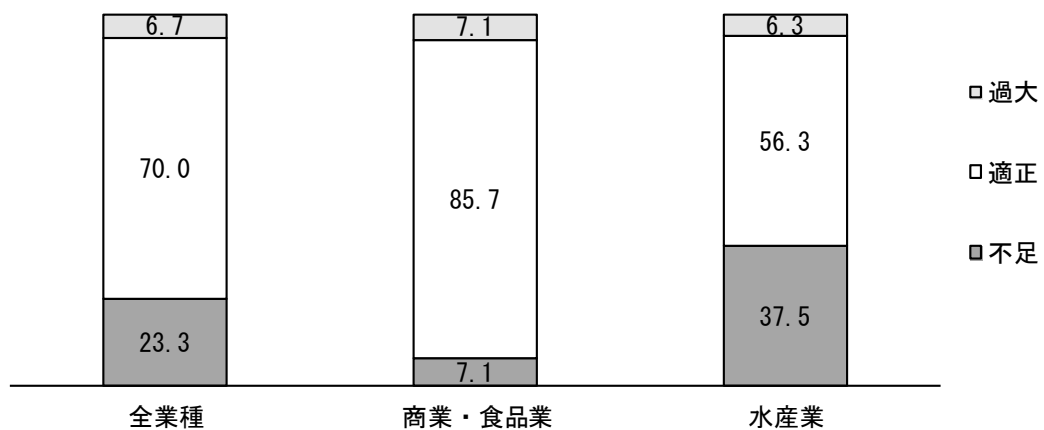
全業種平均でDI値1.3〔前年調査時（平成28年10～12月期▲23.7）より25ポイント回復〕  
全業種で好転。特に、機械工業は56.4ポイントの大幅回復。

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲22.2→▲15.4〕、水産業〔前年▲16.7→6.3〕  
機械工業〔前年▲33.3→23.1〕、建設業〔前年▲27.8→5.9〕  
観光・サービス業・諸業〔前年▲23.5→▲12.5〕

### (4) 今期の在庫水準

〔前年同期比〕（平成28年10月～12月期の水準と比較した今期の在庫水準）

### 今期の在庫水準（前年同期比）

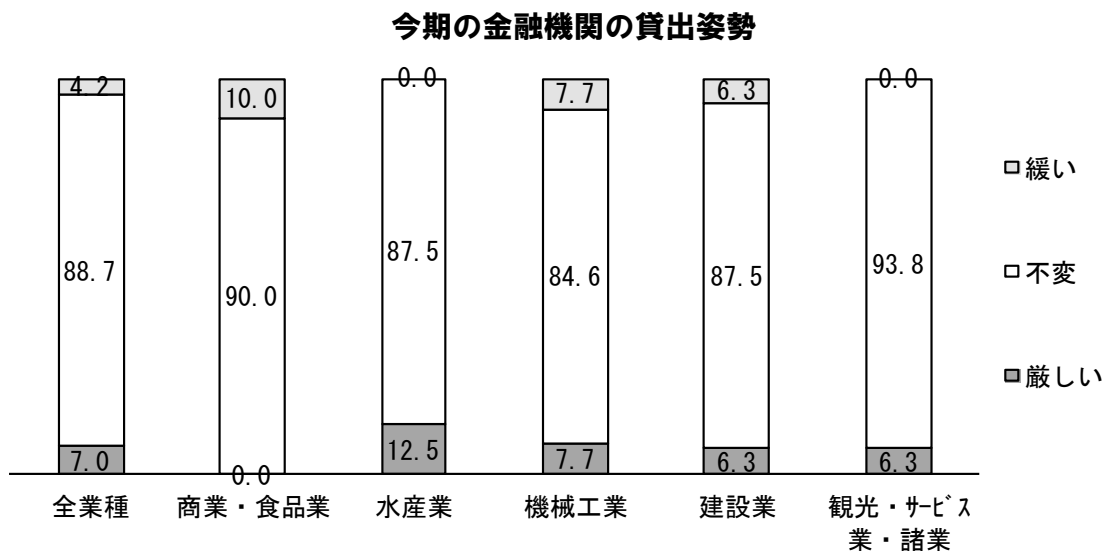


全業種平均でDI値▲16.6〔前年調査時（平成28年10～12月期▲18.9）より2.3ポイント回復〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年5.6→0.0〕、水産業〔前年▲42.1→▲31.3〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

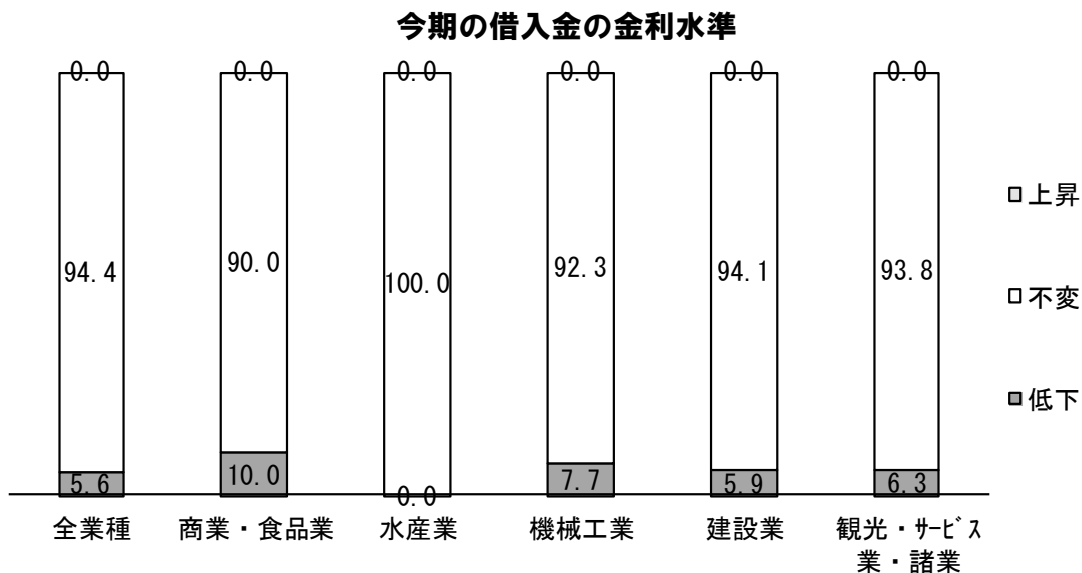
【前年同期比】（平成 28 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）



全業種平均で▲2.8ポイント。商業食品業 10.0、水産業▲12.5、機械工業 0.0、建設業 0.0、観光・サービス業・諸業▲6.3

(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（平成 28 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

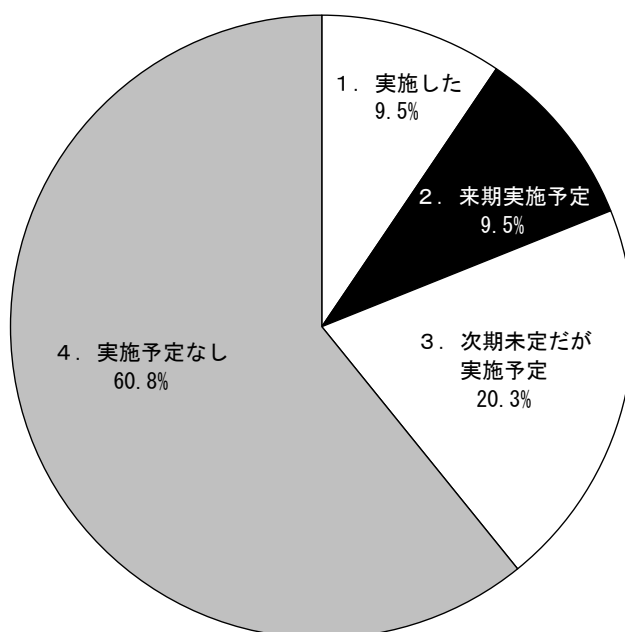


全業種平均で▲5.6。商業食品業▲10.0、水産業 0.0、機械工業▲7.7、建設業▲5.9、観光・サービス業・諸業▲6.3

## (7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

### 設備投資の実施状況

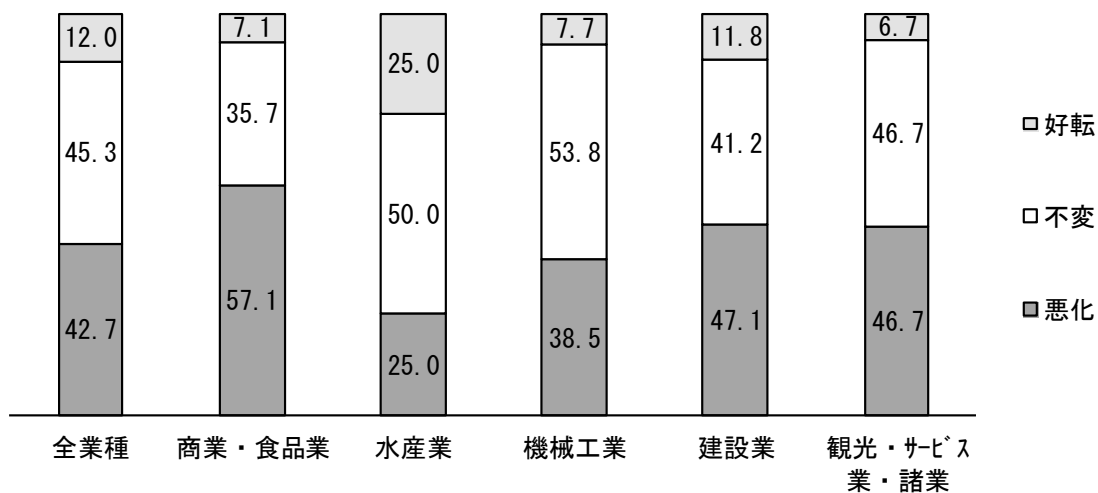


## 3. 来期の見通し

### (1) 来期の業況

【今期比】（平成 29 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

### 次期の業況見通し（今期比）

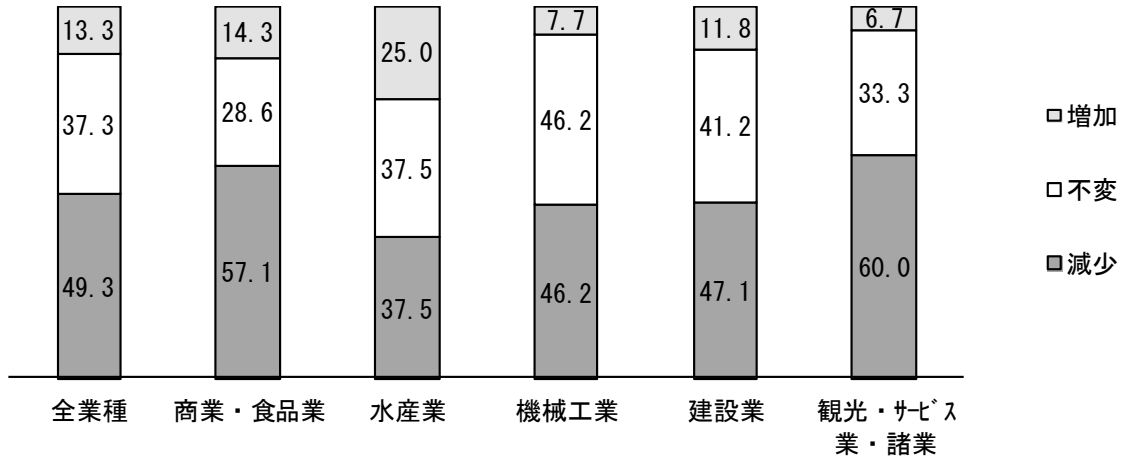


全業種平均 DI 値▲30.7〔今期の業況（前年同期比 0.0）より 30.7 ポイント悪化の見通し〕

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 29 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

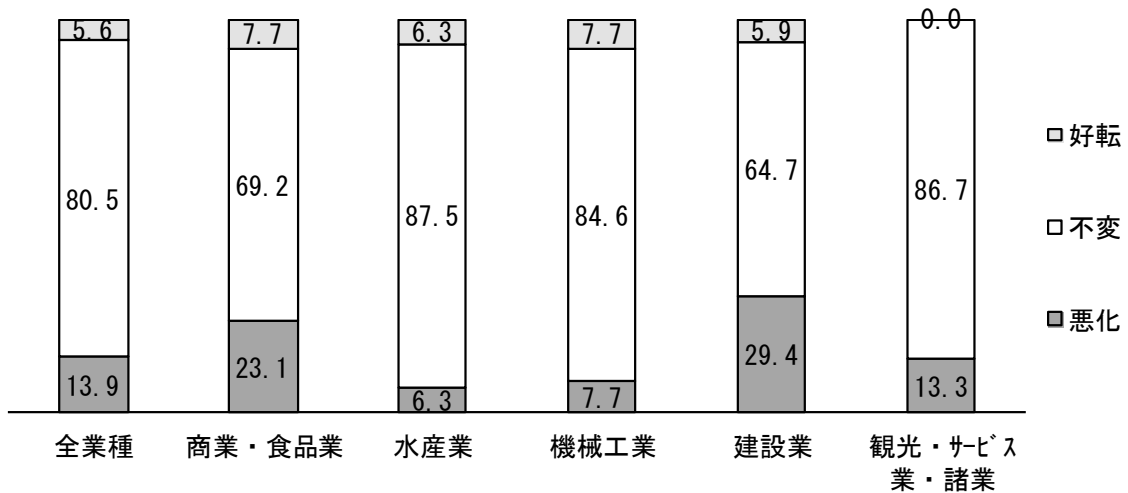


全業種平均 DI 値 ▲36.0 [今期の売上高・生産高（前年同期比 0.0）より 36 ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 29 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 ▲8.3 [今期の資金繰り（前年同期比 1.3）より 2.3 ポイント悪化の見通し]

### Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食品業	水産業	機械工業	建設業	観光サービス業 ・ 諸業
業況判断 D・I	今期実績	0.0	▲28.6	12.5	23.1	11.8	▲18.8
	来期見通し	▲30.7	▲50.0	0.0	▲30.8	▲35.3	▲40.0
売上・生産 D・I	今期実績	0.0	▲28.6	12.5	30.8	11.8	▲25.0
	来期見通し	▲36.0	▲42.9	▲12.5	▲38.5	▲35.3	▲53.3
在 庫 D・I	今期実績	▲16.6	0.0	▲31.3	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採 算 D・I	今期実績	▲4.0	▲35.7	0.0	30.8	11.8	▲25.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	1.3	▲15.4	6.3	23.1	5.9	▲12.5
	来期見通し	▲8.3	▲15.4	0.0	0.0	▲23.5	▲13.3
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	▲2.8	10.0	▲12.5	0.0	0.0	▲6.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	▲5.6	▲10.0	0.0	▲7.7	▲5.9	▲6.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。

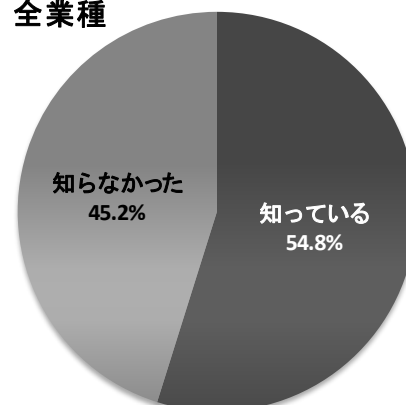
### Ⅳ. 得する街のカレンダー事業について

市内商店街の若者らが組織する「紋別まちおこし塾」が中心となり、「得する街のゼミナール『街ゼミ』」などを実施し、紋別の商店街を活気づける取り組みを行っていますが、昨年12月には、より多くの方に気軽にお店等に足を運んで貰う機会とするため、各商店等で使えるお得なクーポン券付きのカレンダー「得する街のカレンダー」を製作。広報もんべつ（12月号、1月号、2月号の計3回）に折り込み、調査事業を行いました。

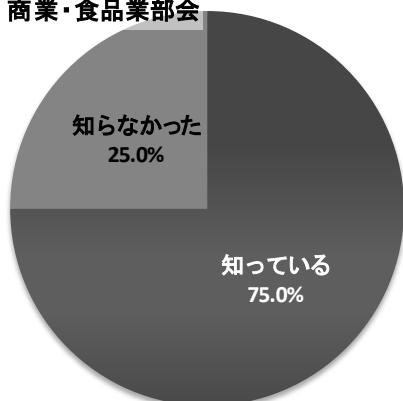
今回は、景気動向調査の付帯調査として、各事業所の皆さんにカレンダーの認知度や感想などについてお伺いしました。

「得する街のカレンダー」の認知度は約55%となり、特にカレンダーに自社のクーポンも掲載したところも多い商業・食品業の他、建設業の方々の認知度がそれぞれ75%と高くなっております。一方で、水産業では8割以上の方がカレンダーについて「知らなかった」と回答しており、工場地域に会社を構えていることでは広報が配布されていないので、経営者の認知度が低いという結果となりました。

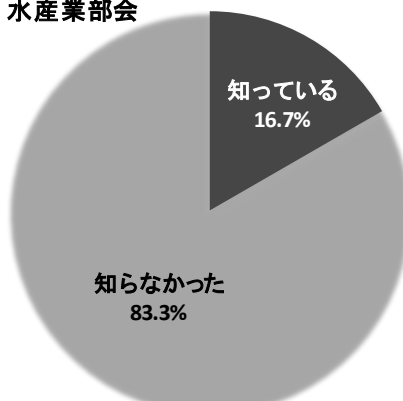
全業種



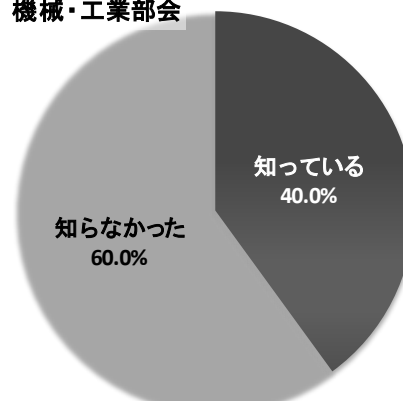
商業・食品業部会



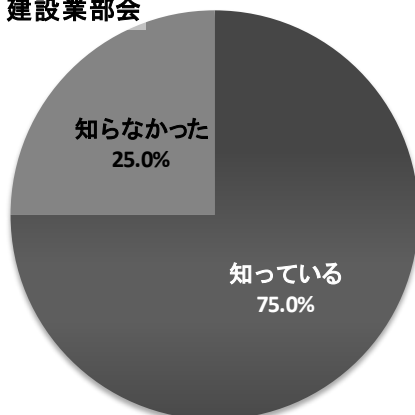
水産業部会



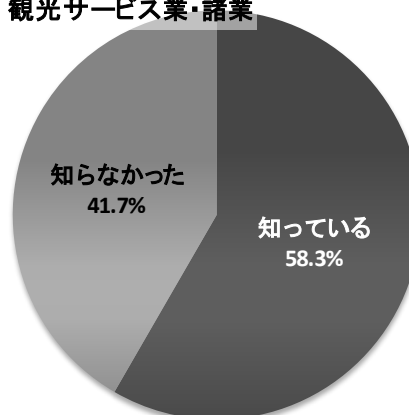
機械・工業部会



建設業部会



観光サービス業・諸業



本事業は、より多くの方に取り組みを知って頂き、実際にクーポン券を利用して頂くことでお店の良さを知って貰える機会に繋がっていくことが期待される事業です。調査事業の結果について、検証を行い、周知の方法や利用のしやすさ等、次回以降に繋げて頂ける事に期待しています。

### 【得する街のカレンダーに関するご意見・ご感想】

- ・現在までクーポン利用者なし。（小売業）
- ・色んなクーポンが付いていて見るのが楽しい。（小売業）
- ・特にクーポンに魅力を感じない。（小売業）
- ・当社には「広報もんべつ」は配布されていない為、わかりません。（水産業）
- ・見てはおりますが、実際にクーポンなどを利用したことはありませんが、使ってみたいと感じます。（建設業）
- ・折込で見ました。居酒屋ふる里で 500 円引きで使用しました。1 月末までなので、行く予定・用事がある店で使います。地元の商店街も生き残りで今後大変かと思いますが、何もしないよりはるよりも良い事と思います。（建設業）
- ・知っていたが使用に至らなかった。持ち歩きに不便で冊子だと小さくなるので良いかなと思いました。（建設業）